

波紋

創刊 1985 年 (昭和 60 年) 7 月

2016 年 10 月
No. 376 号



第 24 回元気になる森松展ご来場ありがとうございます!

第 24 回 元気になる森松展

実行委員 小原・安井

今年も恒例の「元気になる森松展」を9月8日、9月9日の二日間で開催いたしました。テーマ・プラスチックニューウエーブサブテーマと一緒に新しい波に乗りましょう。例年は10月に実施していましたが、他の展示会との日程とも重なり、今年は初めて9月に実施して来場者400名を目標に掲げていました。目標達成するために営業マンは知恵を出し合いながら、二日間で452名の来場者を迎える事が出来ました。これも出展企業様のご協力をはじめ、森松マン、内務のサポートがあつての事だとつくづく実感しております。本当有難う御座いました。



ウェブサイト更新中です

社長 森 直樹



先日、ある企業で行われた研修会に参加し、講師の方より「森松さんのホームページで見ると、面白いですね」といってお褒めの言葉を頂きました。「見ていくうちに次号、また次号と次々と読んでしまっただけでなく、研究会的なコメントも頂戴しました。波紋を改めて社内報を継続することも早急な対応をお願いします。波紋を見たい方も多く、お感頂戴しました。何度かこのコラムでも取り上げたいと思います。波紋の発行が森松の社内報は今回で31年が経過し、印刷業者との関係も変わってきており、社内外注目を集める機会も増えています。波紋の発行は、社内報の発行だけでなく、お客様への情報提供の場として、また、社員のモチベーションを高めるためのツールとして、これからも積極的に活用してまいります。

1日、1メニューの定食屋

「未来食堂」

伊東郁二（特販部）



東京のお客さんから、各メディアが取材に訪れるほどの、新しいシステム「未来食堂」の話を聞いた。1日1種類のメニュー・カウンター12席ほどのこじんまりした店・ランチ時に平均で5回転している店・基本は店主1人で切り盛りしている店・・・。

店主の経歴（東京工業大学の数学科卒↓日本FM↓クックパッド↓飲食店のアルバイト）と店のユニークな運営システムが話題となり、今でもテレビ、ラジオ、雑誌、Webメディアなどに取り上げられているようだ。

「未来食堂」で調べてみると、戦略的にお金を掛けずに宣伝している賢い店主像が浮かんだ。冷蔵庫の中にある食材限定ではあるが、調理方法まで好みに応じて指定できる「あつらえ」。店の仕事を50分手伝えれば1食無料になる「まかない」。「まかない」で得た無料の権利を不特定の他人に譲れる「ただめし」。飲み物の持ち込みOKだが半分は店側に提供し、それを他の客が自由に飲める「さしいれ」。今までにないシステム・ビジネスの形が受けている様だ。

しかし、「あつらえ」は、残していても悪くなる食材の有効利用になる。「まかない」は、店主1人でたいへんな「労働力」をもらっている。

「ただめし」は、誰かが「まかない」で得た1食無料の権利を譲渡しているだけである。「さしいれ」は当然ながら原価0円。どれ1つとして、「未来食堂」は「損をしていない発想」には驚かされる。アルバイトした「サイゼリア」から、多くを学んだとのコメントもしている。アルバイト初日で、スムーズに「レジ打ち」まで出来る「ガイダンスブック（マニュアル）」・システム面でもたいへん参考になったそうだ。アルバイト採用が決まると渡される「ガイダンスブック」は、何とかして入手したいと思うほど興味を持った。この店主の素晴らしい面は、経験から得た良いことをまずは取り入れている。そして、利用出来るところだけを残し、未来食堂用に考えながらアレンジしている。日々、ひとりでもスムーズに運営できるシステムの構築と素晴らしい発想力に感動した。

「まかない希望者」には事前にガイドを読んでもらうようにしているそうで、即、行動に移すところが、「成功の証」なんだろうなあ・・・。

お千代保稻荷神社

村田恒夫（総務部）



先日、妻と二人で久しぶりにお千代保稻荷神社へ行ってきました。

おちよぼさんの愛称で親しまれているお千代保稻荷神社は、日本三大稻荷の一つとして知られ、年間二百万人の参拝者で賑わっています。特に、月末月初に参拝される方が多くなります。

これは「今月もよく商いができました、ありがとうございます。来月もよろしくお願いします」と商売繁盛のお礼参りをすするためです。参拝者は油揚げをお供えして、商売繁盛などのお願いをしますが、そのお供え物が拝殿の前にどっさりとならべられ、普通の神社では見られない風景です。お千代保稻荷神社へ以前は、親父も一緒に連れて三人で年に3〜4回行きました。親父は、お千代保稻荷神社で売っている酸っぱい沢庵、お菓子（割れせん）を買うのが楽しみで、お昼時には、親父の好きな味噌おでんとご飯を食べるのが親父にとって最高の時でした（私たち夫婦は、味噌おでんではなく、うな丼を食べました）。

お千代保稻荷神社は、親父にとって歩くことが運動にもなり、丁度いいドライブコースでしたが、最近では、車での移動もじつとしていくことが出来ず、歩くこともヨロヨロとした状況で、本人は転ぶ恐怖感からあまり積極的に外で歩くことがなくなりました。そんなことから、お千代保稻荷神社へ行くことも遠ざかっていきましたが、妻と二人で久しぶりに行って感じたのが、新しく出来た店が増えていました。ただ、私がお千代保稻荷神社へ行く第一目的（楽しみ）の九州屋の善哉（本当に美味しい善哉）がなくなっていたのには大きなショックを受けました。この大きなショックにより、今まで以上に千代保稻荷神社へ行くことが遠ざかるのは間違いなく感じました。（参考…善哉ですが、知多CCの茶店の善哉がそこそこ美味しいです）

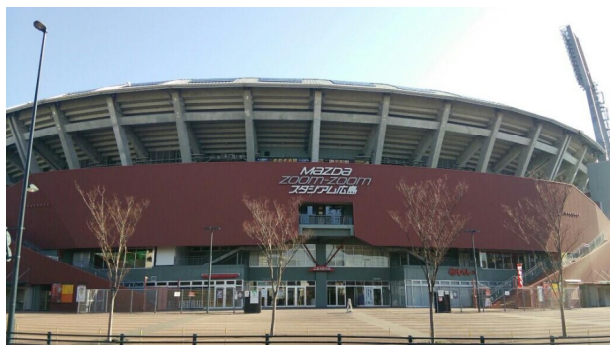
広島カープ優勝

西垣 浩司(森松産業)



前田健太投手がメジャーに行き、今シーズンは誰もが厳しい戦いになると思っていました。今シーズンが始まってみると、逆転勝ちの試合が多く、去年までとは違って、頼りがいのあるチームになっていました。ドラマチックな神がかり的な試合も多く、なんとと言っても、またカープに戻ってきた黒田投手と新井選手を迎えての悲願の優勝。このふたりなしに優勝はなかったかも知れない。実に25年ぶりである今回の優勝を受け、カープファンの間はもちろん、ほかの球団のファンの方や、あまり野球に関心がなかったかたからも、たくさんのかたに愛されている球団だと思います。選手の活躍はもちろん、近年では「カープ女子」という言葉が流行し、さまざまな切り口で注目されることも多くなりましたが、実はカープ女子と呼ばれていることに始めは抵抗があったといえます。試合を観に広島に行った際に、どんな形であれ、カープが話題になり、それを素直によるこべる懐の深さが、カープファンの素敵なところだと感じました。今からカープファンに・・・?

これまで、なかなか勝てない時期があったり、あまりお金がなかったり、育てた選手に旅立っていかれたり、色々なことがありました。ですから、今ではそのすべてが、この時のためにあったのではないかというくらいに、誇れるような思いでした。本当にいいチームになりました!どんな状況でも全力でプレーする選手の姿にどれだけパワーをもらったことか。後は、クライマックスシリーズ優勝、勢いで日本一も奪取してください。



誕生日

山口 和也(森松産業)



9月10日は、私の53歳の誕生日でした。普段の誕生日は特にプレゼントを貰うわけでもなく、ケーキを食べるでもなく過ぎて行く場合がほとんどでした。まあそれが寂しいと感じることもありませんでしたが、この歳になると誕生日は歳を一つ重ねるわけになりますので、およそめでたいものでもないので仕方ないことかもしれません。しかし、今回の誕生日は少し様子が違っていました。今年の9月10日は土曜日でした。私はプライベートで、かれこれ18年間少年野球の指導をしています。私土日と祝祭日には、正月を除き練習グラウンドに立ち続けています。当然その日も子供たちと夕方まで練習をしていました。いつものように練習を終え帰ろうとしたところ、父母会長さんが寄ってきて少し時間が欲しいと言われました。暫く待っていると、子供たちが私の周りを取り囲みました。何が始まるのかと思っていると、キャプテンの掛け声でハッピーバースデーの合唱が始まりました。そして父母の皆さんがケーキを出してくれて、お決まりのロウソクを吹き消しグラウンドで子供たちと少しづつケーキを食べました。夜はチームのスタッフと父母の皆さんに誕生日パーティーをしていただきました。そこでもまたケーキと私の似顔絵入りマグカップなど心のこもった数々のプレゼントをいただきました。今年の誕生日は、心がほっこりする誕生日となりました。「感謝」 チームの指導方針は「感謝」「思いやり」「向上心」。それを体現するような素晴らしい方々に囲まれているんだなあと感じました。まさに感謝です。体力の限界が忍び寄ってきています。が、もう少しグラウンドに立ち続けようと思います。



10月の予定

森松株式会社のオリジナルキャラクター
守り隊の『マモーリン』誕生しました！



このたびLINEスタンプデビュー☆
全40種類100円で販売しています！
いますぐクリックしてね！

30日 (日)	29日 (土)	24日 (月)	22日 (土)	15日 (土)	10日 (月)	8日 (土)	1日 (土)
アハマドさん誕生日	第五土曜日休み	加藤雅昭さん誕生日	生産会議 12時00分～	CS会議 14時10分～15時	第四土曜日休み	第三土曜日休み	第二土曜日休み
					体育の日休み		第一土曜日休み

森松株式会社 社内報 MORLIN
No: 376 平成28年 9月28日
編集者 大石耕平 小坂美香 小原龍一
伊東義弥 柳原 瞬 種葉善貴
間部将大 近藤結礼

無人島

野間 秋子 (森松産業)



今年の夏休みに福井県にある水島という無人島へ海水浴に行きました。毎年、海水浴やキャンプへ行くのが我が家の夏休みの恒例となっております。今年は福井へ一泊で出掛けて来ました。水島は敦賀半島の先端にある小さな無人島で7月中旬から8月下旬までの間だけ渡し船で渡ることが出来ます。対岸から数分で行きます。そして北陸のハワイと言われるほど綺麗な海が広がっています。船は二ヶ所から出ており、民宿などの宿泊客が乗る浦底漁港と、日帰り駐車場が多数ある色から船に乗りました。今回は福井市で予約してあったので色が浜から船に乗りました。数分乗るだけの船にお盆休みという色もありません。30分程並びました。レがあるだけなので、食料や飲み物、パラソル、浮き輪など必要な物は全て持っていかなくてはなりません。当然我が家の荷物も家族分の昼食、飲み物、簡易テント、遊び道具おもちゃ。大荷物になり皆で分担し、持ち込みました。やっと水島に上陸し、簡易テントがひしめき合うなか何とかテントを広げ場所を確保しました。約500mほどしかない砂浜は遠浅で透明な海が広がっており、腰の深さまで入ると小さな魚の群れがいました。また岩場もありヤドカリやカニや生き物がいて子供たちはシュノーケルをしたりカニを捕まえたりと楽しみました。あまりの人の多さに無人島気分は味わえませんでした。綺麗な海で遊ぶことに満足し、帰りの船に乗り水島を後にしました。そして、そこから福井市へ移動し一泊して、東尋坊を観光し帰宅しました。我が家は息子二人で長男が中学2年なので、いつまで旅行に付いてきてくれるか分かりませんが、また次の旅行の計画を立てたいと思います。

